The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	工学部地球総合工学科「情報活用基礎D-Ⅱ」の講義を振り返って
Author(s)	小泉, 圭吾
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2012, 13, p. 55-55
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70336
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

工学部地球総合工学科「情報活用基礎 D-II」の講義を振り返って

小泉 圭吾（大阪大学 大学院工学研究科 地球総合工学専攻）

1) 講義概要

本講義は地球総合工学科の 2 回生を対象に行われている。講義の目的は、計算機の様々な操作方法や利用時の心得について実際の操作を通じて理解し、情報の伝達・収集・整理・分析など情報を活用する能力を習得することである。またその上、他の授業科目や研究活動、現代社会でも必要とされる情報処理能力(レポート作成、プレゼンテーション、データの整理、分析)の習得も目的としている。

2) 講義内容

講義の内容は概ね以下のとおりであった。

(1)計算機利用の基礎

(2)Microsoft Word・PowerPoint の理解と活用

(3)ソフトウェアを用いた数値計算・統計解析

(4)Microsoft PowerPoint を用いた課題の発表

工学部の学生は 1 年次を豊中キャンパスで過ごすため、吹田キャンパス内の情報実習室端末を利用するのは本講義が初めてであることが多い。そのため、講義のはじめに計算機システム利用上の注意や実習室端末の基本操作を説明する時間を設けた。その後、ワープロソフト(Microsoft Word)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を利用し、情報を活用する能力の基礎となる内容を取り扱い、さらに発展的な内容として Microsoft Excel、Mathematica、統計解析パッケージ SAS を用いたデータ整理、分析を行った。また、上記の内容を踏まえた上で、プレゼンテーション実習も行った。本年度はクラス内を 4 人ずつの班に分け、東日本大震災の事例調査および東南海・南海地震への対策を 1 班 10 分程度で発表し、質疑応答も行った。上述のような、プレゼンテーションの資料作成や発表を初めて行う学生も多いため、本年度は①東日本大震災の事例を調査し、問題点・課題を検証する、②近畿県における東南海・南海地震対策の現状を把握し、問題点・課題を検証する、③対策の改善案を提案する、という構成を事前に指定し、プレゼンテーションが施設、設備、計画、法制度の説明に終始しないよう留意した。

3) 講義を振り返って

本講義は内容別に 5 名の教員と 2 名の TA で担当し、筆者は Microsoft Excel を用いた表計算・グラフ作成・マクロを担当した。例年、学生間に経験の差があるため、本年度も基礎的な内容から講義に取り入れたが、少々発展的な内容となると作業がストップしてしまう学生が見受けられた。各ソフトの説明・実習に 2 コマずつという時間的制約の中で、全体の理解力を向上させるためには、高校時に学習していなかった学生のレベル向上を意識した授業進行が求められる。プレゼンテーション実習では、すべての班がそれぞれのテーマに沿った興味深いプレゼンテーションファイルを作成した。資料の作成、発表、質疑応答に関して、荒削りではあるが、筆者の学生時代と比べると、これらの能力は確実に進歩しているように思われる。一方、テーマに関する改善案を提案するという要求に対し、事例紹介に内容の多くを費やし、自分たちの考えをうまく主張するまでには至らなかった班、質疑応答に苦慮する班などが見受けられた。最も、これら課題を 2 年時で全て満足させることは不可能であり、4 年時に取り組む卒業研究までに一歩ずつ積み上げていって貰えればと願う。自身への反省と今後の課題は、学生自身が主体性を持って講義に取り組めるように配慮することである。年々変化する学生の興味を捉まえて、興味を創造するような工夫を考え、実践していきたい。

末筆ながら、本講義は主担当の飯田准教授、入江講師、有田助教、猪井助教の円滑な指導と TA の浅野君、北村君のサポートにより行われた。また、本稿の内容には筆者の主観が多分に含まれていることをご承知頂きたい。